

菊川市の元気・魅力を発信する情報誌

祝 広報菊川 300号

Kikugawa City Public Relations Magazine

平成17年1月の菊川市誕生に合わせて、広報菊川は創刊されました。それから18年と6カ月、途切れることなく市の話題を市民の皆さんにお届けし、ようやく300号の節目に到達することができました。インターネットの発達やSNSの普及により、情報が気軽に手に入るようになりましたが、広報紙は市民と行政をつなぐ役割を担う大切な物です。今回の特集では、広報菊川300号までのあゆみを振り返ります。

問い合わせ 営業戦略課営業広報係 (☎35-0924)

歴代記念号

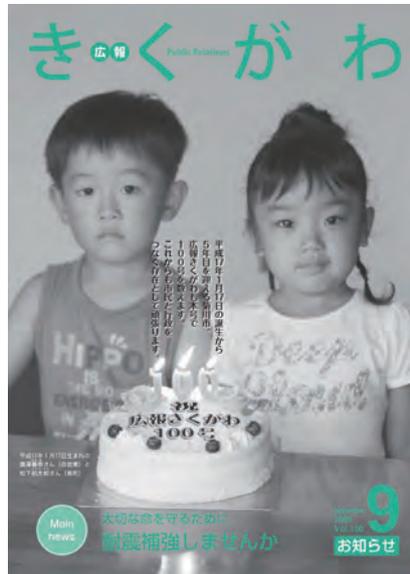
— 200号(平成26年4月) —

— 100号(平成21年9月お知らせ) —

— 創刊号(平成17年2月) —



市制10周年記念の節目に200号を達成！この号から紙面構成を全面リニューアルし、24ページで月1回発行になりました。タイトルが現在の「広報菊川」になったのもこの号から。表紙を飾ったのは、公募で名前が決まったばかりの「きくのん」でした。



市制5周年を迎える年に100号を達成！この頃は月に2回発行していて、100号は「お知らせ号」でした。表紙は、菊川市と同じ日に生まれた松下航太郎さんと廣澤春奈さん。2人には10年後の15周年記念特集にも登場してもらいました。



記念すべき第1号！合併直後で慌ただしかったからか、6ページしかありません。表紙はもちろん菊川市の誕生です。この時の「きくがわ」の題字は、下本所の佐々木和仙さんが書いたもので、平成19年1月の42号まで使用されました。

取材(随時)



市内のイベントや掲載記事に関係する人の所などへ行き、写真を撮ったり、話を聞いたりします。雰囲気や伝わるように色々な角度から撮影します。

企画会議(発行日の1カ月前)



毎月1回、次月の広報紙に載せる記事を決める打合せを行っています。各課からの掲載依頼や、市として伝えたい内容などを整理して、紙面構成を作成します。

広報菊川ができるまで



広報菊川は、営業戦略課の職員が企画・取材・編集・校正を自分たちで行っています。ここでは広報菊川ができるまでの工程を紹介します。